

四国地区小学校長会は、全国連合小学校長会の研究主題「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」の下、各県が連携しながら研究と実践を重ねている。

これまで、令和2年度徳島大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により誌上開催とし、令和4年度香川大会は、参集とオンラインによる開催とし、研究大会にかけ熱き思いをつないでいった。令和6年度徳島大会では全国大会を兼ねて開催し、特色ある実践に四国四県の会員が大いに刺激を受けたところである。

本県では、近年、校長のリーダーシップとマネジメントに視点を当てながら、学校の課題解決に向けた実践研究に取り組んでいる。子どもたちを取り巻くこれからの社会は、少子高齢化や世界情勢の混迷、気候変動に伴う自然災害の激甚化、発生が予想される南海トラフ巨大地震、生成AIなどデジタル技術の発展等の大きな変化があいまって、社会や経済の先行きに対する不確実性がより高まっている。また、学校においては、様々な支援を必要とする児童や、いじめや不登校児童の増加により、児童を取り巻く環境が複雑化・困難化するとともに、児童の減少に伴う学校の統廃合やDX（デジタルトランスフォーメーション）を含め新たな教育価値の創出を見据えた教育の推進等の課題が山積している。

こうした状況を踏まえ、これからの学校では、培うべき児童の資質・能力に基づき、家庭・地域と連携して、社会に開かれた教育課程の実現と検証、より効果的なカリキュラム・マネジメントを確立していくことが望まれる。

我々校長は、一人一人の子どもが郷土を愛し、夢や志の実現に向かって継続して取り組むとともに、他者と協働しながら豊かな未来社会を創ろうとする教育を目指すこととした。また、子どもたちに実践的な態度を育み、広い視野に立って社会に貢献する人間づくり、世界に通じる人づくりを目指した学校経営を推進していかなければならない。

以上のことを踏まえ、愛媛大会では、副主題を「郷土を愛し 持続可能で豊かな未来社会をともに創る子どもを育む学校経営の推進」と設定する。そして、これまでの研究の成果を受け継ぎ、大会主題の更なる追究を目指すとともに、学校経営の責任者である校長の果たすべき役割と指導性を究明しようとするものである。

り修正することがある。